

傘を受け取る井ノ一涼介くん(左手前)と其川琴美さん(左奥)



黄色い傘で安全な登下校を 交通安全黄色い傘贈呈式

4月2日、御船警察署(一ノ瀬範秋署長)で交通安全黄色い傘の贈呈式が行われました。御船地区安全運転管理者等協議会(吉田誠地会長)と御船地区交通安全協会(西口俊一会長)が雨天時の交通事故を防ごうと新入学児童へ黄色い傘を贈っており、今年で13回目。今年は御船警察署管内17校の新入学児童592人を代表して、七滝中央小学校へ入学する井ノ一涼介くん(上野)と其川琴美さん(同)に黄色い傘が贈呈されました。二人は、「これからも交通事故にあわないようにします」と交通安全への誓いを元気よく述べました。

桜満開!!城山公園で春満喫

城山公園桜祭り

3月28日、桜祭りが城山公園で開催され、家族連れでにぎわいました。これは、みふね街づくり組合ドリーム・パッション(藤木正幸代表)が町の活性化や同公園設備チャリティー事業を目的に行われ、今年で3回目。特設ステージでは本村純一さん(滝川)の三線演奏や御船中学校吹奏楽部の演奏が披露され、桜の花びらが舞う会場は和やかな雰囲気に包まれました。また、チャリティーオークションには町の特産品など15点が出品。収益金はドリーム・パッションから町へと贈呈され、同公園の整備資金に役立てられます。



桜の木の下で演奏する御船中学校吹奏楽部の生徒たち

中心市街地に潤いの流れを

シンボルロード線開通式

3月31日、シンボルロード線と国道445号御船バイパスの工事が一部完了し、開通を祝う記念式典が行われました。シンボルロード線は平成15年度から町が整備を進めている都市計画道路で、総延長が約900㍍(国道443号木倉バイパス～御船橋付近)、総事業費は約18億円。今回の開通区間は約620㍍(国道443号木倉バイパス～御船中学校前)、片側一車線の幅員18㍍で、平成23年度末の全線開通を目指しています。また国道445号御船バイパスの開通区間は約370㍍(国道443号木倉バイパス～御船町役場付近)、片側二車線の幅員28㍍で、御船インターチェンジ近くまでの約2.4㍍を平成24年度末の全線開通を目指しています。式典では御船中学校吹奏楽部の演奏や関係者のテープカット、車で通り初めをして盛大に開通を祝いました。



シンボルロード線と国道445号御船バイパスの一部開通をテープカットで祝う関係者たち



西南の役で熊本城天守閣が炎上した際、熊本県庁が急きょ御船町(現商工会前)へと移転(明治10年2年19日～21日)。その歴史を伝えるための記念碑を眺めるウォークラリー参加者たち

御船の史跡を歩いて巡ろう

観光健康ウォーキング

3月21日、みふね観光健康ウォーキングが開かれ、約140人が参加して御船中心部を散策しました。町観光協会(吉田誠地会長)とフネッピーすこやかスポーツクラブ(竹内昭剛会長)が共催で、御船の史跡や観光資源の再発掘を目的として初開催。コースは御船川の管理道路をスタートして、県指定重要文化財を数点所有する東禅寺や西南の役で激戦地だった妙見坂公園、県庁跡など幾多の名所を巡り、ゴールの眺世庵を目指す3㍍と5㍍の2ルート。所々に設置された御船の歴史クイズにも挑戦して心地よい汗を流しました。またウォーキングと併せて、御船川兩岸の管理道路に御船町ライオンズクラブ(藤村久会長)などが整備したウォーキングコース1.7㍍の落成式も行われ、これから朝夕の散歩コースとして親しまれそうです。

「ボランティア活動を地域に広げ、ますます高木を好きになってほしい」と受賞の喜びを話す北森光代校長



地域の環境で育つ高木っ子

高木小に地域ボランティア賞

高木小学校(北森光代校長、131人)に3月12日、県内でボランティア活動を積極的に取り組む地域や団体、個人に贈られる「地域ボランティア賞」が熊本善意銀行(伊豆英一会長)から贈られました。同小では、全校児童をあげて地域の清掃活動に取り組む「ふるさとクリーン作戦」を年3回、PTAの母親部が協力してアルミ缶を回収する「リサイクル活動」を月1回で実施。児童たちを中心に教職員や地域住民が協力しあい、高木校区の環境美化を10年間に亘って保全したことが認められての受賞となりました。

書道で心を育む御船っ子

御船小が書道コンクールで学校賞

3月12日、平成21年度J A 共済全国小・中学校第53回書道コンクール(全国共済農業協同組合連合会主催)で御船小学校(芥川公明校長、330人)が学校賞を受賞しました。この表彰は、書道コンクールに貢献のあった小中学校が対象で、同校を含む全国の小中学校32校に贈られました。同校では、授業以外でも児童たちが書道を自主的に取り組み、半紙193点と条幅7点を応募したことや、同校2年の黒岩愛さん(御船)が県本部で入選(上幅が銀賞、半紙は佳作)した実績などが総合的に評価されての受賞となりました。



「子ども一人ひとりの力が認められたことは学校教育で子どもの力になる」と受賞を喜ぶ芥川公明校長